

# 令和4年度 公開保育・第1回施設関係者評価委員会

清水認定こども園

2022年11月1日(火)

## 1. 参加者紹介

児童養護施設 施設長  
近隣小学校 校長  
近隣地区協議会 会長  
清水認定こども園 保護者会会長  
法人 理事長  
法人園 保育教諭  
清水認定こども園 園長  
主幹保育教諭  
クラス担任

## 2. 公開保育振り返り

### 【園長より】

- ・話し合いが予想以上に盛り上がり、45分も話していた。普段は20～30分程度の時間で実施している。
- ・今までも子どもたちが好きであった絵本を題材に発表会の劇あそびを展開していく方向ですすめている。3・4・5歳児の子どもたちがそれぞれの思いを自由に発言していた。いろいろな方向に話が広がっていたが、子ども同士でやりとりをし、最後まで落ち着いていた。

### 【担任より】

- ・今日までに4月から絵本【きっちゃんシリーズ】を季節に合わせて楽しんできた。そういった姿から、今回の発表会の題材として取り上げることにした。話に出てくるキツネという動物に興味を持ち、玩具でキツネや鳥居を作る姿もあり、子どもたちは親しみを持っている。
- ・話し合いの中で子どもたちの「なぜ？」という疑問がよく出てきており、その疑問を中心にやり取りを楽しめるようになった。年長児は年齢別活動での話し合いを経験することで、自分で意見を言うこと、友だちの話を聞くことができるようになってきた。
- ・担任として、年長を中心にすすめていってほしいという思いもあり、年長にはすべての子に話を振るようにした。年中や年少の子どもたちにもわかりやすいように「おまじない」といった言葉を使いながら投げかけるようにした。
- ・ルールのある遊びを通して、『ルールを守らないと楽しくない』ということや、異年齢で協力することの楽しさを感じてほしいという思いがあり、ルールのある遊びを取り入れている。
- ・マット運びは特別活動(運動あそび)でも遊んでいた人気のあそびであった。おしり鬼ごっこは何度もクラスで楽しんでいる遊びであり、雨の日に外で遊べない日はよく取り入れている。

## 【公開保育を見て】

- ・ 実際初めて見せてもらったが、“子どもたちを安心して任せられる”と感じた。
- ・ 子どもたちが大きな声で楽しんでいて良かったが、地域の苦情が大丈夫かと気になった。
- ・ 絵本の時間の子どもたちの様子を見てみると、話の内容の理解が難しい子どももいたが、担任がうまくコーディネートされていた。気になるのは、そういった時に理解等のしんどい子がどういった時間を過ごしているのか？というところに気を付けていきたい。活発なお子さんは目立つが、目立たない子はどうか？と日ごろから気を付けているが、今日の子どもたちは最後まで楽しんでいたのは普段からの信頼関係やクラス作りができていないからではないかと感じた。そういった子どもたちへの関わりは断片的でなく継続的にしていきたいと思う。
- ・ 年齢が低いほど同年齢での差が大きい。年長児には年長児なりの集団があり、そのなかでそれぞれが年長だという自覚をもち、ひっぱっていこうという意識が見られた。
- ・ マット運びでは、2チームの人数差に気づかないのかと思っていたが、1回戦後に年長児が気づき、それを保育者が拾って対応されていた。
- ・ 人生100年時代と言われるの近年、そのうちのわずか2・3ねんだが、すごく大事な時期であり、その時に経験したことを1生の間でも忘れず覚えていることがある。
- ・ 遊びの中で保育者にひっついて離れない姿を見ると、子どもたちが親以上になついていると感じた。
- ・ 遊び中に、泣いている子がいてもそっとトントンとする子がいた。子ども同士の関係が気づけていると感じた。
- ・ 小学校に行った際、異年齢での経験がどのようにつながっていくかが楽しみである。
- ・ 異年齢でのかわりの中で、子どもたちの育ちよく見えた。年長児は自覚を持って取り組んでいたが、その中で年中・年少児はどのように育っているかをしっかりと見て行ってほしい。
- ・ 年少児にはルール理解に差があり、これから年齢別でフォローして行ってほしい。
- ・ 遊びの中でトラブルがあったが、しっかり進行役とフォロー役とで役割分担できていた。その後も遊びに復帰できていたのは、保育者と子どもの信頼関係ができていないからではないかと感じた。
- ・ 子どもたちの声を子どもたち同士で拾い、支え合っていた。
- ・ 全体的にしっかりと計画されていた取り組みだったため、今後の普段の中では主体性をどのように育てていくかを教育・保育に生かして行ってほしい。
- ・ 年長だけでなく、年少・年中も、話している子の顔を覗き込んで聞いている姿が印象的だった。摂津峡では意見をもとめると一斉に声が聞こえてくる。

### 3. 施設関係者評価委員会

#### ◎講評

- ・自己評価の点数は高く出ているが、第三者評価は受審済みか？ぜひ受審し、客観的な意見をもらってより良い教育保育ができるようにして欲しい。
  - ⇒清水は未受審であり、来年に受ける予定である。
- ・地域からの苦情レベルが上がっており、過敏になっている。無茶な話もあるが、地域と連携がとても大事で、そういった状況の中でしみられ会（男性保護者の会）は大事な取り組みである。OBになっても継続してしてもらえたら強みになる。施設に対して苦言してくるのは孤立している場合が多く、不安を持っている傾向にある。
- ・学校でも高槻市内でも不登校が増えており、主な理由はともだち付き合いの下手な子が多いからである。昔の子は、家庭で思いが通らないことがあったが、近年一人っこが増え、思いが通らない経験を学校で始めて経験する。すると不登校、社会へいくと引きこもり、につながりやすい。
- ・今のうちに思いが通らない経験をたくさんさせたいと思う際に、異年齢はとても良い環境である。
- ・園を出た所の溝が危なく、園側でネットを張っているが、市に申請して金網にしていきたい。些細なことだが地域の人の安全を守っていきたい。
- ・協議会とのつながりがなかなかなく、幼稚園時代はグラウンドを借りていたが、園庭が工事で変わり、できれば2階ホールを借りたいと思っている。地域への認識が広がっていくためにも、敬老の集いへの参加、子どもたちの発表を見せてもらうなどの取り組みをすすめていきたい。
- ・コロナにより、保護者同士のつながりが減っている。保護者会に対するイメージとして『園運営を一緒に盛り上げたい』と思っていたが、『面倒くさい』『何やらされる？』という人が多かった。そういったイメージを払拭するためにも今年度はいろいろ今までに無かったことをやってみている。保護者同士のつながりができていれば、園に対する小学校に対するクレームも軽減できるのではないかと考えている。